

ヤナギムシガレイ

生態的特徴等

【生態】北海道南部以南から東シナ海にかけて分布し、本県沖での主な生息水深は 100～150m である。12～2 月の産卵期は水深 100m 前後、それ以外の索餌期は 150m 前後に分布する。体長は雌雄ともに 2 歳で 20cm 程度となり、3 才以降になると雌のほうが大型化する（図 1）。寿命は雄で 6 年程度、雌は 10 年以上とされ、雌雄ともに 2～3 歳で成熟する。餌は甲殻類・多毛類であり、成長に従い多毛類が主食となる。

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁獲され、平潟や大津、久慈漁港などで水揚げが多い。盛漁期は 12～2 月頃である。

【利用】焼き物や高級干物商材として利用される。特に子持ちは珍重され高値で取引される。

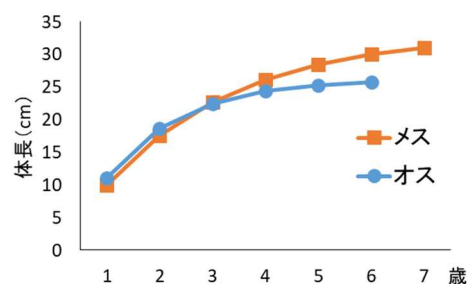


図1 ヤナギムシガレイの成長

新規加入少なく、資源は中位・増加傾向

（漁獲量）H7 年以降漁獲量が増加し、H12 年までは年間 33～84 トンで推移した。H13 年以降 H26 年までは 18～40 トンで推移していたが、H27 年から急増し、翌 H28 年には 105 トンに達した。その後、漁獲量は減少傾向となり、R6 年は 19 トンとなった（図 2）。

（加入量）本県の調査船調査で確認している直近 5 年間の新規群の加入量は、R1 年生まれが比較的多かったものの、資源の増加につながる良好な水準にはなっていない。

（水準と動向）資源水準は、過去の底曳網の漁獲量から計算した CPUE (kg/隻・日) の推移から「中位」、動向は、直近の CPUE の傾向から「増加」とした（図 3）。

水 準



動 向

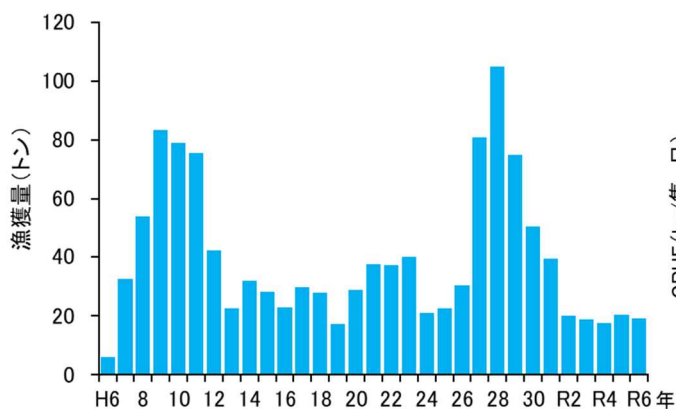
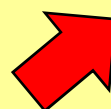


図2 ヤナギムシガレイの漁獲量(水試システム 属地集計)

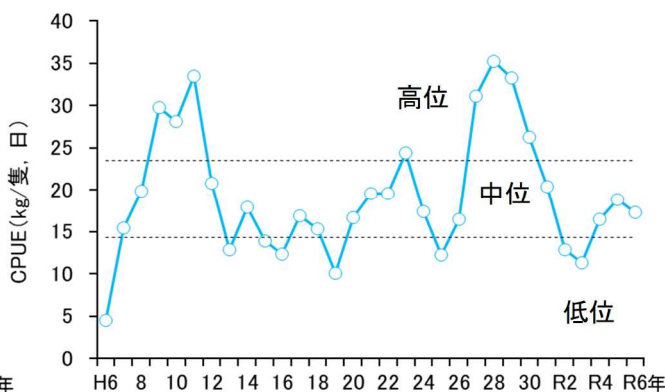


図3 ヤナギムシガレイの CPUE(小底 5t 以上)

【全国の漁獲動向】

- ・ 茨城県以外の主な産地は、山陰地方、三陸地方、福島県、新潟県などであり、福井県の『若狭がれい』などがブランド化されている。